

四條畷市総合教育会議（令和3年度第1回）

会議録

四 條 畷 市

1 令和3年10月14日 午後2時30分 四條畷市役所委員会室において、四條畷市総合教育会議を開催する。

2 出席者

市	長	東 修平
教 育	長	植田 篤司
教育長職務代理者		山本博資
教 育 委 員		佃 千春
教 育 委 員		河田 文
教 育 委 員		尾崎 靖二

3 事務局出席者

総 合 政 策 部 長	西尾 佳岐
兼 魅 力 創 造 室 長	
教 育 部 長	阪本 武郎
総 合 政 策 部 次 長	木下 順代
兼 秘 書 政 策 課 長	
教 育 部 副 参 事	賀藤 久道
兼 学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	
教 育 部 次 長	木村 実
兼 学 校 教 育 課 長	
学 校 教 育 課 長 (人 権 教 育 ・ 教 科 指 導 担 当) 兼 教 育 セ ン タ ー 長	花岡 純
教 育 総 務 課 長	板谷ひと美
青 少 年 育 成 課 長	勝村 隆彦
生 涯 学 習 推 進 課 長	安田 美有希
教 育 部 上 席 主 幹 兼 主 任 (生 涯 学 習 推 進 担 当)	村上 始
公 民 館 長	神本 かおり
図 書 館 長	田中 学
教 育 総 務 課 主 任	木邨 勇貴
秘 書 政 策 課 主 査	安田 直由

4 会議録作成者

秘 書 政 策 課 主 査	安田 直由
---------------	-------

5 案件

(1) 四條畷市教育振興基本計画 (素案)

(2) その他

総合政策部長兼
魅力創造室長

それでは定刻になりましたので、令和3年度第1回四條畷市総合教育会議を開催させていただきます。本日は全員の出席をいただいております。なお、令和3年10月1日付で新たに尾崎委員が就任されました。のちほどご挨拶をいただく予定でございます。よろしくお願いいたします。

さて、本日は四條畷市教育振興基本計画（素案）について報告や、意見交換を行うためお集まりいただいたところでございます。本日も円滑な会議の進行にご協力をよろしくお願い申し上げます。まず、会議に先立ちまして、資料ですが、次第と四條畷市教育振興基本計画（素案）、そして基礎資料、この3つになります。皆さんお持ちでしょうか。

また、会議録の作成を行いますので録音をさせていただきます。ご発言の際はマイクをお使いいただき、ご発言いただきますようお願いいたします。

それでは初めに市長からご挨拶を申し上げます。市長よろしくお願いいたします。

市長

改めまして、皆様こんにちは。本日も公私何かとお忙しいにもかかわらず、お集まりいただき誠にありがとうございます。また本日から尾崎委員にも加わっていただき、ご議論いただけるということになり、のちほどご挨拶をいただければと思います。

さて、振り返りますと4月から、いわゆる新型コロナウイルス感染症の第5波というものが襲ってまいりまして、とりわけ教育委員会の方々にはさまざまご苦勞があったかと思っております。そうした中、常に児童生徒のことを考えていただきながら、きめ細やかな対応にあたっていただきましたことをこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。ありがとうございます。

一方で、そうした苦しい状況であった本市ですが、教育分野では非常に嬉しいニュースといたしまして、つい先日、飯盛城跡が国史跡指定されるという出来事がありました。足かけ5年、平成28年度からの取組みとして、ここまでたどり着いたということは、市全体として大変喜ばしいことだと思っております。これまでの皆様方のご尽力に心から敬意を表したいと思っております。

さて、本日は従前から議論をさせていただきました教育大綱、こちらをご参酌いただいたうえでの教育振興基本計画の素案について、ご説明をいただけると伺っております。こちらについては学校教育のみならず社会教育もその範囲に含めるということで、言わば本市の全市民を対象とした非常に重要な計画と言っても過言ではな

市長	いかと思います。ぜひとも本日も実りある議論をさせていただければと思いますので、よろしく願いを申し上げまして、簡単ではございますけれども、挨拶に代えさせていただきたいと思います。本日もよろしく願いいたします。
総合政策部長兼 魅力創造室長	ありがとうございました。続きまして、本年10月に新たに就任されました尾崎委員様から一言ご挨拶をいただきたいと思います。
尾崎委員	<p>失礼いたします。10月1日付をもちまして、教育委員を拝命いたしました尾崎でございます。私と四條畷の関係と申しますか、皆さんと同僚であった時期もございまして、教育委員会事務局に勤めさせていただいておりました。様々な困難もございましたけれども、行政の方に助けていただいたなという記憶が、非常に鮮明に残っております。</p> <p>また、現場に出ましてからは、四條畷の三つの小学校で校長を務めさせていただきました。また、退職後も、各学校の校内研、国語が専門でございますので、国語につきましての指導をさせていただいており、現在も続けさせていただいているという縁がございます。</p> <p>非常に微力ではございますけれども、畷の教育のために、幾何か尽力できればと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
総合政策部長兼 魅力創造室長	ありがとうございました。それでは市長、以降の会議の進行をよろしく願いいたします。
市長	はい。それではお手元の次第に従いまして進めてまいりたいと思います。まずは四條畷市教育振興基本計画（素案）について担当部局より説明をお願いいたします。
教育部長	<p>教育部長の阪本でございます。少し長くなりますので、着座にて説明させていただきます。</p> <p>四條畷市教育振興基本計画（素案）の策定につきまして、お手元の資料に基づいて説明させていただきます。</p> <p>本年度、策定予定の（仮称）四條畷市教育振興基本計画について、教育委員会での議論に加え、学校現場及び関係団体からの意見聴取を経て、今般、素案を取りまとめましたので、その概要を説明させていただきます。</p> <p>お手元の資料に沿って説明いたします。先ず、1ページめをお開</p>

教育部長

きください。

第1章 計画の意義では、「計画の背景と趣旨」を記載しております。人口減少、少子高齢化の進展、情報化やグローバル化など、社会情勢の大きな変化のなか、これまでの教育振興ビジョンに基づく取り組みのさらなる充実と発展、また、自然災害や感染症の世界的流行、急速な技術革新に応じた新しい方針策定の必要性を踏まえ、本計画を策定することを述べています。

次に、2ページの計画の位置づけでは、市長により策定された教育大綱の基本理念を参酌し、第6次総合計画に定める施策の方向性を踏まえ取りまとめるものであり、教育基本法第17条第2項の規定する計画に位置づけることを明記しております。

次に、3ページの「策定にあたっての基本的な考え方」では、1わかりやすく、共感が得られる計画、2社会変化に対応できる計画、3継続性のある計画、以上の三つのコンセプトのもと、計画を取りまとめることを記載しております。

次に、4ページの「計画の構成」では、本計画は教育における長期のビジョンを掲げるものであることから、基本理念に将来像(夢)を掲げ、基本方針には中長期的な施策の方向性を示すこととし、具体的、短期的な取り組みは施策ごとに分野別計画やアクションプランを定め、教育振興基本計画と機能分担することを説明しております。

次に、5ページ、「計画期間」については、国の教育振興基本計画が掲げる2030年以降の社会を展望した教育の実現を通過点とし、第6次総合計画の第2フェーズを到達点に定め、令和4年度から17年度までの14年間としつつ、7年度と12年度をめどに必要に応じた見直しを行います。

次に、6ページ、第2章 教育振興ビジョンに基づく取り組みの検証では、就学前教育、学校教育、社会教育、ハード整備の分野ごと、平成26年度以降の取り組みの概要をまとめております。なお、施策ごとの主な成果と課題、達成度などの詳細については、計画の基礎資料として本編とは別に整理しております。

加えて、計画を取りまとめるにあたり、8月12日に毎年の点検評価をお願いしている学識の先生と、教育振興ビジョンに基づく取組の検証の場を持ち、先の基礎資料をもとに、今後の施策や事業のあり方について、意見交換させていただいたことを申し添えます。

次に、9ページ、第3章 本計画の目標についてです。

「1 基本理念」となる教育の長期的かつ普遍的な将来像(夢)には、「みんなの学びが叶うまち ～生涯 学び 夢 挑戦～」を掲

<p>教育部長</p>	<p>げ、子どもからおとなまで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働して学び続けることができる環境づくりをめざすことといたしました。</p> <p>この基本理念は、教育委員会事務局の若年層職員、また、小中学校の児童生徒を対象に、教育の未来を描き、語り、表現いただく機会を設け、取りまとめたものでございます。</p> <p>若年層職員による検討の様子、また、G I G Aスクール端末を活用し、児童生徒からいただいた意見の内容を、別添の基礎資料（２）、（３）にお示ししておりますので、のちほどご確認ください。</p> <p>次に、１０ページ、「測定指標」についてです。教育振興基本計画では、次の３点の指標の設定を予定しております。</p> <p>まず、１点め自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合、２点めが人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合、３点めが将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合で、子どもにとって最適な学び、育ち、健やかな成長をもたらす環境は、おとなにとっても心豊かに自己実現ができるまちにつながるとの考えのもと、学校教育、社会教育の全般において一貫した指標を掲げることといたしました。</p> <p>なお、この３点は、小学第６学年と中学第３学年の児童生徒が受験する全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果を活用することとし、数字ではかれない要素をも視野に入れ、丁寧な検証を重ねながら、年度を重ねるごと指標値の向上をめざしてまいります。</p> <p>次に、１１ページ、第４章 基本方針と施策では、基本理念を踏まえた６つの基本方針とそれに紐づく１３の施策を学校教育、地域づくり、生涯学習、環境整備の順に整理しております。</p> <p>これらについて、体系図として表現したのが１２ページの内容であり、左側に教育大綱、その右側に教育振興基本計画を置き、それぞれの相関関係を示しています。</p> <p>また、教育大綱が子どもたちの育ち、学び、健やかな成長に重点を置き、策定されている背景を踏まえ、教育大綱と教育振興基本計画の間に、おとなの学びを補完する社会教育の基本方針として、みんなの“やってみたい”も叶う環境を位置付け、取組みの方向性を示しております。</p> <p>次に、１３ページ、「持続可能な開発目標（SDGs）との関わり」について、持続可能な世界を達成するための１７のゴール（目標）のうち、４質の高い教育をみんなにの達成に貢献すべく、他の目標とも横断的に関連を持ちながら、生涯を通じた質の高い教育の提供をめざすことを謳っております。</p>
-------------	--

<p>教育部長</p>	<p>続き、14ページから29ページでは、基本方針とそれに紐づく施策ごと、現況、施策の方向性、それらの具体的、短期的な取組みを示す分野別計画やアクションプランを整理しております。</p> <p>加えて、計画の参考資料として、(仮称)教育振興基本計画策定委員名簿、審議経過と意見聴取の流れ、(仮称)教育振興基本計画策定委員会設置要綱をまとめております。</p> <p>なお、審議経過と意見聴取については、本日以降の流れを追記していくこととなります。ここまでが計画本編として取り扱う内容です。</p> <p>また、本編とは別に、基礎資料として、(1)教育振興ビジョンに基づく取組みの検証について、(2)教育の基本理念(将来像)について、(3)子どもたちが描く教育の未来の3点の資料を整理し、先の教育振興ビジョンの検証結果や、基本理念を抽出するにあたっての若年層職員によるブレインストーミング、授業支援システムを活用した児童生徒へのアンケート結果をお示ししております。</p> <p>最後に、今後のスケジュールについてです。本日の総合教育会議を経て、事務局にて原案を取りまとめ、11月中旬から市民意見公募手続、いわゆるパブリックコメントを実施のうえ、令和4年1月の教育委員会定例会での議決をめざし、取組みを進めてまいります。事務局からは以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。ただいま、いただきました説明に関して、教育委員さんの方から、何か重ねて補足等することがございましたら、ご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>もし、特段なければ私の方から質問させていただきたいと思いますがよろしいですか。</p> <p>(意見なし)</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>まず、この教育振興基本計画に関しては、守備範囲が非常に広いものでございます。それらを体系的に整理するという事は非常に難しかったであろうと思っております。わかりやすい形で整理されておられて、まずは素晴らしいなという印象を持っておるところでございます。</p>

<p>市長</p>	<p>また、策定の過程で、児童生徒たちの声を集めながら、そういった声がどういものだろうと考え、最上位計画の中に盛り込んでいこうと、これは本市としてもやはり住民の声というものを大切にしながら市政を運営していくという理念に一致するものかと思っております。これに対しても、それに至る困難性もあったかと思いますが、敬意を表したいと思っております。その中で、私からいくつか絞って質問をさせていただければと思います。</p> <p>まず、計画の6ページ、7ページですが、教育振興ビジョンに基づく取り組みの検証ということで、大きく就学前教育等を学校教育、社会教育、ハード整備という4分野に分けてこれまでの取り組みを振り返っていただいているのかと思います。</p> <p>そこで、少し確認しておきたいのが、付属資料にその検証の詳細が書かれておりますけれども、AからCで、おそらく過去の取り組みを評価されているのだと思っております。この計画の6、7ページを読ませていただきますと、基本的にはできたことを主に記載されています。例えば、何々が大きく転換しました、取り組みが進んでいまず、スコアの向上が見られますなど、文尾はこれがうまくいきましたということですので占められているのかと思います。</p> <p>一般的にその検証の中には、うまくいかなかった部分、もう少しここを改善した方がいいというような検証というのものもあるかと個人的には思っておりますが、そのあたりはどのようなふうに整理されているのかが、1点疑問なのですが、これはまず事務局に伺った方がいいでしょうか。</p>
<p>教育部長</p>	<p>ご質問ありがとうございます。まずこの計画を策定するにあたりまして、市民に浸透しやすく、わかりやすい計画に取りまとめたというのが大前提でございました。課題や評価は別添の基礎資料の中で示すこととしてございます。それから新たな計画の検討の過程では、この検証結果は、当然十分活用しながら、今後の施策の方向性を整理したという状況でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。何か補足することはありますでしょうか。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>この計画を作る時に、やはり一番私自身が気にしたのは、教育大綱の基本理念である「個性をみんなを活かすまち」というのをいかに基本計画の中に反映していくのかということかなというふうに思います。そういうことで、事務局は非常にもう大変な労力を費やしてもらって、子どもたちの、児童生徒の意見を共有するということ</p>

山本教育長職務代理者	<p>ろで、市長からお褒めの言葉をいただいたように、私も本当に事務局の皆さんに敬意を表したいというふうに思っています。</p> <p>それで、今ちょっと質問ありました教育ビジョンとの関連なんですけれども、教育ビジョンから教育振興基本計画に変わるからというので、別に四條畷の教育が全くガラッと新しくなるわけではなくて、やっぱり今までの蓄積を継続していかなきゃならないというふうには思ってます。そういう意味でいうと、さらに充実して発展させていくという視点かなというふうに考えていますので、例えば教育振興ビジョンの中の、特に昨年度悪かった部分というのが、プログラミング教育とか、そういうところにあったのかなと思いますけれども、その中については実際、子どもたちがまだ慣れていない部分と教職員がそれを使いこなせるかというところの課題等がありましたので、そういう部分が、評価としては非常に低い評価になっているというふうに思っています。そういうところを考えると、必ずしも教育ビジョンの中で、評価が低い部分が、振興計画の中で取り上げるべきではないというよりは、むしろ、取り上げていかなきゃならないところが、そういうところの視点として、考えてきたかなというふうに思っていますので、ビジョンと教育振興基本計画を切り離し、発展をしていかなきゃならないんですけれども、やっぱりある一定の部分は、引きずっていかなきゃならない部分もあるかなと。</p> <p>そういう中でいうと、例えば未来教育会議の中で英語教育について、もうそろそろ英語教育というのはいいのではないかなという声もちょっとあったように議事録を読まさせていただいて感じたんですけれども、確かに10年前、市が教育ビジョンの中で英語教育を取り上げてきて、府の中のモデル校になって、ずっと引っ張ってきたというような経過がありますけれども、そういう時と比べたら、ややそこまで力を入れる必要はないのではないかなというふうには思いますけれども、やっぱり、これからグローバル社会の中で子どもたちが生きていく中では、英語というのはツールとして必要だなというふうに思いますので、そういう視点もやっぱり振興基本計画の中には入れてきたというふうに、ちょっと具体的な例で申し上げたんですけれども。そういうビジョンと基本計画の中をなるべくうまくマッチングして、さらに発展してくような形を作ることができたかなというふうに思ってます。</p>
市長	<p>ありがとうございます。いまの事務局と、そして職務代理からのご説明からいたしますと、しっかりと検証したうえでこの基本計画</p>

<p>市長</p>	<p>に反映させているものの、全体のわかりやすさの分量等の観点から、こういう形の整理をしたと、そういう理解になるのかなと思います。ありがとうございます。</p> <p>続きます、計画の21ページです。私が気になっているのは、先ほどの検証のところでもそうでしたが、就学前のところから分けていき、今回21ページから出てくる「地域の教育コミュニティづくりへの支援」というのは、振興ビジョンという大分類にはおそらくなかった項目かと。記載がなかったということではないと思いますが、大分類としては存在してなかったのが、今回基本方針の一つになっているというのは大きな変化かと思っています。その上で、この基本方針の他のものを見ていくと、すでに分野別計画だったり、アクションプランというものがすでに存在する中、この基本方針については、施策の方向性が記載されていますが、現時点での分野別の計画だったりアクションプランというのが、今のところ存在していないという状況にはなっています。ですので、やはりこの基本方針に格付された今、今後この辺りをどう進めていかれる方針もしくは予定なのか、そのあたりを伺っておきたいと思っております。</p>
<p>教育部長</p>	<p>いま市長がお示しのとおり、新しい分野といいますか、書き出し、まとめでございます。新しいまとめという観点から申し上げますと、確かに計画という個別計画というのは作っていないのですが、実はこの項目、書き出しとしては新しい項目ですが、その目標に準じた活動は様々しております。例えばスポーツの推進計画に関しましては、保健体育の授業、あるいは部活動、学校での自由時間とか、スポーツイベント等を通じての活動があります。いわゆるスポーツを親しむことについて計画があります。</p> <p>それから、文化芸術振興計画におきましては講座とか教養というような講演、研修というところがございます。</p> <p>また学校以外、公民館の振興計画でも、人づくり、地域づくりというところはめざすものでございます。同時に青少年の健全育成ということから、子ども若者活動支援計画においても、すべての子ども、若者に対する支援を地域と連携するというようなところがございます。そういう意味では既存の計画の中でも、この地域教育のコミュニティづくりの支援と、非常に方向性を同じくした計画というのがございますので、そのあたり、目的が同じという解釈、もう一度確認のうえ、分野別計画の追記に該当するものかどうか、検討したうえで、該当するようであれば、追記というのを考えていきたいというふうに考えます。</p>

<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。既存の持っている計画等の中で、同じ方向性を向いているものも当然あって、それらがもしあるのであれば記載していくとそういうことですかね。わかりました。ありがとうございます。</p> <p>本当にこの分野というのは、おそらく令和3年度に取り組むとしているコミュニティスクール、これを実際に、実施していく中でおそらく得られた知見みたいなものを活かしながら今後の取組みの方向性を定めていくのかと思います。</p> <p>とりわけ、地域との関わりとなってくると、どうしても学校・教育分野のみならず社会教育や、あるいはこの市全体の地域との関わりみたいなものと密接に繋がってきて、非常に分野横断的な取組みになろうかと思しますので、こちらについては教育委員会といたしましても、本市にも例えば地域協働課など、地域を単位とした取組みをしている部署等もありますので、ぜひそういった部署等との連携の部分も意識していただければと思います。</p> <p>続きまして、27ページなのですが、今回この基本方針5「学びを支える教育環境の整備」は、教育振興ビジョンでいうところのハード整備の分類、ハード面を主に取り上げた基本方針かと思っています。</p> <p>そこで、分野別計画等、あるいはその施策の方向性等を探りますと、分野別計画では学校再編整備など様々書かれております。個別施設計画は市全体の公共施設について定めているものですが、学校や通学に関する計画が集中的に見られる一方で、社会教育施設全般に関しては、どのように修繕、あるいはどういうものにしていくのかというところが見受けられない状態だと思います。</p> <p>施策の方向性のところで、学校・社会教育施設と明言されており、優先順位づけを行ったり、予防保全、長寿命化、ユニバーサルデザインを意識と書かれていますが、今後この部分について、社会教育のハード面などの整理の進め方などといったところが、いま現在あるのであれば教えていただきたいと思っています。</p>
<p>教育部長</p>	<p>社会教育施設全般を網羅した整備計画というのは実は現在ございません。小中学校につきましては学校再編整備計画、これに基づいて、一定今後の学校像が明らかになり、それに基づきまして学校の施設の修繕計画という形ですすでに動いております。一方、利用者の利便性の向上や、既存施設のさらなる整備・拡充に努める施設整備においては、文化芸術振興計画及びスポーツ推進計画で触れていますが、個別施設計画の具体的な決定がされた後に、優先順位を定め、社</p>

<p>教育部長</p>	<p>会教育施設の整備計画の策定を検討というか、ぜひ必要だなという認識で考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。この話をさせていただきまして、ぜひ教育委員の皆さんにお伝えしておきたいことがございます。本市につきましては、皆さんご案内のとおり、平成10年近くぐらいから非常に財政が厳しいという状況の中、行財政改革プランというものを多年にわたり実行してまいりました。</p> <p>実は苦しい時期に小中学校等の中規模改修等しなければならない時期に当たっておりましたが、なかなか難しかった。ただ、おかげさまで職員一同、尽力を重ねまして、現在は財政の構造が非常に良くなりました。もう、なりましたと言っていいかと思っています。</p> <p>直近でも、財政調整基金に頼らずに予算編成ができるということが2年続いておまして、まさにこれからは、四條畷市も必要な部分に投資をしていくというフェーズに入ってきたのかと思っております。</p> <p>なるべくこういう施設面、ハード面というものなどは、壊れたから修繕するという事後対応よりは、常に計画的に予防保全をしていくということが、まず第1に児童、あるいは使っていただける市民の皆さんの安全性にも繋がりますし、長い目で見ると費用負担も平準化され抑えられると、そういう観点もございますので、ハード整備等考えていく際には、ぜひそういった長期を見据えた予防保全型の施設整備であったり、体制整備。これはハード面に限らないわけですが、そのような考え方で、教育行政についても、進めていただきたいという意味で、今回この質問をさせていただいております。</p> <p>続いて、28、29ページのところですが、「学びを支える教育体制の整備」。こちらは教員、先生方のことを方向性としてさしており、例えば質の高い研修を行うであったり、教員同士で学び合い・高め合うであったり、教員の業務を整理していくなど、いろいろ教員に関することが様々書かれてあるのかと思います。そこでその分野別計画等をさぐりますと、その教員の皆さんの研修の部分とか、お互い高め合う学び合うみたいのところを見ていきますと、下三つの計画は情報化による整備計画で、教員に関することではないと思います。この「まなびのプラン」に、児童生徒のことだけではなく、教員の皆さんに関することも記載されているとそういう理解でよろしいでしょうか。</p> <p>「まなびのプラン」の中にですね、一部授業の改善と申しますか、授業の改善、それから畷の授業のスタンダードなど教員の質向上を</p>

<p>教育部長</p>	<p>というのは記載がございます。授業改善イコール学校教員の研修等もセットになると思うんですけども、この「まなびのプラン」と申しますのは、基本的には子どもの学びに向けた計画でございます。この計画に具体はまだ記載してはいないのですが、実は今、機構改革を全庁的に進めており、令和4年度に向けて検討しています。その中で、教育部としましては、教育センター、ここの研修機能というのをやっぱり拡充させたいなという思いは持っております。この辺を、もう少し具体になった段階で記載、追加できればなと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。これも、前回の就学前、学校教育、社会教育、ハード整備の整理には実は出てこないくくりになります。施策としても指導體制の整備、教職員の資質能力の向上というのを、いわば基本方針まで格上げしてるということになっており、これは従前とはまた大きく違う取り上げ方だと、見比べて思いました。</p> <p>教育委員の皆さんの中にも長く教えてこられた方、教えられた方がいらっしゃる中で、もしよろしければ、これを基本方針とされた思いや、こういうようなことをしていったほうがいいんじゃないかというところがあれば、ぜひ教育委員の方からも、何かご意見などいただければと思っておりますがいかがでしょうか。</p>
<p>佃委員</p>	<p>失礼します。ここにはやはり思いがあると思うんですけども、結局、学校教育、社会教育すべてそうですけれども、やはり学びを支えるっていう限りは、教職員がどういう体制でいるのか、先日の未来教育会議の中でも、二見委員でしたか、組織について言及されていたかと思うんですね。やっぱりそれを推進する人たちがどういう目標を共有して、同じ方向を向いて子どもたちに向かってるかというのを突きつけられてる部分だと思いますので、奇しくも植田教育長自身が、今その辺を切り込んでおられて、例えば学校経営計画をしっかりオープンにしましょうとか、しかも様式を整えていきますよとか、ホームページをしっかりしましょうとかも、教育長がそのまま推進されておられますので、そういったあたりをしっかりと皆さんで揉む中でやっていけたら、今おっしゃってるような成果とともに、やはり先生方も、もっともっと子どものために良くしていこうという思いに進んでいかれるんじゃないかなと思って、私はこのところはすごく期待している部分です。</p>
<p>佃委員</p>	<p>今も部長がおっしゃったように、組織で研修というものが推進さ</p>

<p>佃委員</p>	<p>れるのであれば、おそらく校長先生が組織マネジメントとしても、または職員の資質能力を向上させるためにも今、大阪府では教員育成指標とかございますから、一体うちの学校ではどういった先生方の姿であるべきだっという議論をもう一度していただくことでそれは人事評価にも繋がっていきますし、もっと体系的な学校経営ができていくんじゃないかなと、それを教育長がねらっておられるところじゃないかなと私は思っています。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。教育長、お願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>まず、学校経営というマクロな視点で、とらえると、めざす学校像があり、そのような学校づくりに経営リソースをどのように考えるかです。今般、GIGAスクールがトリガーとなっていますが、教員として求められるものが大きく様変わりしています。これは単にICTの技術が求められているということではなくて、授業のスタイルを変革したり、ラーニングスタイルそのものを変えなければいけないということです。子どもたちのモチベーションを高めて、いろいろな可能性を追求していけるような、のようなファシリテートができる教員ということをめざしていく。ただ先ほど佃委員もおっしゃられたように、新しい教員のあるべき姿というものを、しっかり学校と教育委員会で議論をしまして、そういった方向へ支援していく、サポートしていくというスキームを作っていくことが重要と考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。教育長職務代理お願いします。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>このことにつきましてはね、未来教育会議の中でも、学び支え合っている学校というような指摘があつて、残念ながら市の学校現場では、そういうことがちょっと見られない学校もあるというような指摘があつたかというふうに思うんですけども、やはりこれ自身は、子どもが主役ですので、その主役を支える教職員というのは、やっぱり他の部分で言われたように、市が求める教職員の資質能力みたいなものも必要ではないかという指摘もありましたので、そういう子どもをもっと支えていく先生にとっては、やはり資質能力というのは、市の中ではこういう部分が求められますよということが必要かなというに思っています。いま教育長が言われたように、ICTを活用すれば、子どもたちの学びが保障できるわけではありませので、それは単なるツールですので、その中で教職員が一丸となっ</p>

山本教育長職務代理者	てどういうふうな教育内容を作っていくのか。そういうところが一番大事なかなと思いますので、基本方針の一つとして上げてきたというのはそういう意図はあるというふうに理解しています。
市長	ありがとうございます。河田委員、保護者としての目線から、何かご意見があればお願いします。
河田委員	<p>おそらくなんですが、これまでの学校の教育というものと、全く新しい分野のことが取り入れられてきているということで、それはもう私たち保護者にとっても、未知の世界であるのはもちろん、先生方にとってもおそらくそこはしたことがない、経験したことがないというところで大変不安に思われていることも多いかと思います。</p> <p>また先生方のそういうご意見とか、お聞きしながら、何かこちらでサポートできるような体制が整えられたらいいかなと。またそれは保護者にとっても、安心ですので、そういうことができたらいいいかなというふうに思っています。</p>
市長	ありがとうございます。せっかく各委員にご意見をいただいたので、就任直後ではありますけれど、尾崎委員、よろしければご意見をいただいてもよろしいですか。
尾崎委員	<p>はい。特にね、GIGAスクール構想ということでね、国が一挙に全国の子どもたちに1人1台のタブレットということでね、大きく前進して実現しました。ただ、それは職務代理がおっしゃったようにツールであって、教育自体はもう平成20年の時を、特に一つの境として大きく変わろうとしていた。子ども主体であって、子どもが学びを作っていくという、そういった際にそのツールとしてどう活用できるのかということが非常に大切で、実はこの間、市の教育研究会のある部会に招かれまして、どのように使っているのかというのを聞いたところ、ちょっとここはマイナスのことを申し上げて恐縮ですけども、スクールタクトというのは、シンキングツールが入ってますよね。入っていないという先生方がいらっちゃって、それはいの一番、ちょっと困ったなと思ったりしてるんですね。</p> <p>そういったことの新しい学びは、タブレットがなくてもそれは学ばれないシンキングツールの総合的な学習の中に考えるための技が10入りました。これは実はもうすべての教科ですべての小学校の子どもたちが身につけなければならない。いや未来を生きる人間に</p>

尾崎委員	<p>とってそれは必要なことだとなっているんですが、そこはどうかというところがあります。</p> <p>だから、教育委員会としてはそういったことを支えるという、不十分なところがあればそれをさらに前進させていくと。十分なことをされていると思うんですよね。教育長、専門家でいらっしゃるし。</p>
教育長	<p>よろしいですか。いま言われたシンキングツール、思考ツールということですね。象限マトリックスだとか様々。重々ご承知のように、新しい学習指導要領に基づく教科書には随所に掲載されています。それが授業支援ソフトに教科書のまま入っているわけではありません。テンプレートを利用し、編集して授業に用いる。これは例えばですけど、Excelでもできるわけですね。現在導入しているバージョンはコラボレイティブにできる仕掛けになってますから、みんなで参照しながら、思考ツールを活用するという協働学習ができるわけです。</p> <p>だからこそ、今後このような思考ツールを教科横断的な学びに適用していければよいと考えます。これをぜひ学校と教育委員会事務局が一緒に進めていければと思います。</p>
尾崎委員	<p>事務局としての支えが、非常に必要であると。ないと言って騒ぐのではなくって、エクセルでできるじゃないかと、頑張りましょうという、これが事務局の支えが必要なことで、基本方針として上げるにふさわしい内容ではないかと思えます。</p>
市長	<p>ありがとうございます。私としては、これは本当に大きな項目だと思いました。先生の資質とかいうことを記載していくというのは、駄目なことではないですが、あまり着目されてこなかったことではないかと思えます。個人的には「学び合う」などあまり文章として読んだことがないように感じており、これを位置付けられたというのは本市の特徴で、四條畷市教育委員会としては先生たちの学びを支えていくんだという、メッセージ性としては非常に大きなものではないかと考えています。今後、教育委員会として進められることとして、私としても非常に期待をしている状況でございます。</p> <p>それで、私の質問としては最後になるんですが、10ページです。本市のこの基本計画の目標というところで、「みんなの学びが叶うまち」。素晴らしく、教育大綱も参酌いただいたうえでお考えいただいた基本理念かと思っております、ありがたいと思っております。</p> <p>そのうえで、やはり私として今回この計画を拝見した際に素晴ら</p>

<p>市長</p>	<p>しいなと思うことがありました。特に素晴らしいと思ったことは、「測定指標」というところです。実際に、この基本計画が、子どもたちにどのように影響を与えたのかというところ。指標として3つの目標の割合を表すと。教育行政に関して教育内容というのはすべて数値化できるものはないと思います。ただし、測定指標としては、自分にいいところがあると思う児童生徒の割合など、そういうことを数値化することで、主体的に学んでいるのかななどを推察していくことは素晴らしいと思っています。</p> <p>一方で、この指標三つを見てもみますと、すべて児童生徒に関することになっておりまして、やはり基本理念の「みんなの学び叶うまち」、ここへは当然社会教育も含まれております。下のサブタイトルの、最初に「生涯」、「学び」ときていることも考えますと、やはり大人、社会教育面も含めた測定指標などがあることで、さらにこの基本計画がよりよいものになるのではないのかという思いがあります。そのあたりはご議論など、どういうふうに行われているのかなどをお伺いできればと思います。</p>
<p>教育部長</p>	<p>ありがとうございます。いま肯定いただいたこの三つの指標、これは実はですね、全国学力学習状況調査の質問項目を活用させてもらっているという設計になってございます。</p> <p>一方でですね、教育分野、独自にアンケートをとるということも設計段階では企画しました。しかし、やはり不特定多数、施設をよく使っている方、あるいは教育、社会教育に非常に深い方だけにとると、やはり指標としては、どうかなという中で、ところが不特定多数になるとやっぱり母数が大きくなると。こういう課題が予算も含めてございました。</p> <p>そこで、市長部局で、市民意識調査というのをとっておられるので、それを検討した過程が実はございます。その中で今回三つの指標に着地したという状況でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>山本教育長職務代理、どうぞ。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>いま市長が言われたように、教育委員会の中でも、これについては子どもの学びだけでいいのかという、そういう議論はありました。</p> <p>それと、あとは個人的な意見なんですけども、子どもの学びの中でも果たしてこの三つだけでいいのかという意見も、私自身は感じております。もっと他の視点があるんじゃないかと。</p> <p>それで、教育というのはいくら10個、20個並べても、それでこ</p>

<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>の20個はできているからそれで完璧だ、というふうにはなっていないということも事実かなと思います。なおかつ、単年度の数値目標だけは測れない、もう少しと言いますか、小学生の子どもたちが暇の教育を受けて本当によかったというふうに、50年ぐらい経ってから教育の成果が表れてくるということもあるかと思しますので、そのあたりを勘案して、一つは社会教育の指標については非常に数値化がしにくい。今、部長が言われたように、独自アンケートを取れば、それはそれではっきりと分かるかもわかりませんが、ただ独自アンケートを取ったところで、社会生活を営んでおられる大人の方が、本当に社会教育の1側面がよかったので、いま四條畷に満足しているというふうにされるということは少ないだろう、他の要素が多分に入ってくるだろうというふうに思います。だから数値目標として上げる部分については、非常にしんどいなという部分がありましたので、この三つになりました。</p> <p>この三つになったほかにも、例えば学校の勉強がよくわかるだろうとか、あるいは学校に行くのが楽しいだろうとか、当然そういう部分が一つの数値目標としてはあるんですけども、やっぱり自己肯定感をつけていくとか、あるいは将来の子どもたちの姿。私は社会で役に立つ大人になっていくんだとか、あるいは、最後にありますように、そういう意味でいうと、ちゃんと自分の将来の生活にわたって目標を持ってるとか、そういうのが、いい数値がつくということは、おそらく他の学校が楽しい、先生方の勉強もよくわかるということも、数値が高いがゆえに、この部分が評価されるのかなというのでその三つにしたということです。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。おっしゃるとおり、こういう測定指標というのは、たくさん取ればいいというものではないと私も思っています。大切な指標を取ることが重要なのかなと。</p> <p>とりわけ数値だけを見ても、自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合が小中とも72%。ということは、28%ぐらいの児童生徒は良いと思うところがないと思っているということなので、40人クラスだと11人ぐらいは、ないと思ってるということ。ということは、その72では、見た瞬間は高い数値に見えるのですが、よく考えると、1クラス10人以上がよいところがないと思っているとすると、結構な数ではないかと感じているのが正直なところではあります。これはおそらく本市だからというよりは、もしかしたら日本全体のことなのかもしれないけれど、ここが高くなるということはおそらく、先ほど職務代理がおっしゃられた通り、すべてが</p>

<p>市長</p>	<p>よくなっていかないと、ここはおそらく高まっていかない部分なのかなと思います。なので指標としては、すごく総括的にとられた指標なんだろうと考えております。</p> <p>職務代理がおっしゃられているように、大人の部分、これ難しいのはもう本当にそうだなと思っています。「2測定指標」の中に書いていただいておりますとおり、子どもたちがこういう良い学びを得られる環境は、大人にとってもいいはずだと。そういう論理の中で子どもを測定するというような、これは表現の方法としては素晴らしい方法だと思っていますが、他の委員の中でもこの測定していく、見つめていく指標ということで何かご意見はありますでしょうか。</p>
<p>佃委員</p>	<p>本当に、これについては事務局の方々ともすごく議論をしました。そもそも基本理念の「みんなの学びが叶うまち」という、この「学び」についても、手段の目的化だろうとかっていう話を私もしましたけれども、でも最終的に「夢」を想定した学びが叶うまちということであれば、この三つの指標というのは生きてきますし、この振興基本計画全体の中でも、この三つの指標はすごくいいなど、私はすごく思っていますけれども、実は全国学力学習状況調査の中でも地域との絡みの指標というのが二つあって、例えば「いま住んでいる地域の行事に参加していますか」というのと、「地域や社会を良くするために何をすべきか考えることはありますか」という二つがあるんですね。この一つ一つ、どちらかを入れてもいいのかなと思いましたがけれども、このコロナ禍がいろいろ教えてくれたことというのは、いま地域の方々には学校には勝手に入れないですし、本当に分断というか、保護者ですら参観や懇談でも行きにくいというようなこういう時期に、じゃあ何ができるのかなということまで考えました。最終的にはやっぱり、もうないなというので、市長がお考えの市民意識調査ですか、そちらの方もちょっと見てみようとかという話もしたりしてたんですけども、もし市民意識調査というのは市長の政策がどう反映したかっていうのを物差しとして諮るものと言うのであれば、確かに今回の教育大綱におせっかいが活きる共同体というのを入れておられて、おせっかいイコール参画だと思うんですね。で、地域住民が参画するとなると、いま申し上げたように学校には行けない。いま学校で何が起こってるの、運動会はいつあるのって言っても、残念ながら今の四條畷の状況では学校からの発信はまだ乏しいぐらいだと思っていますので、失礼ながら。わからないという中では、やっぱり学校がどんどんリアルタイムに情報発信する中で、それが例えば今回の四條畷市の広報ではGIGAのことで載っ</p>

<p>佃委員</p>	<p>てましたし、またKyoukanヘッドラインニュースですね。あれなんかすごく写真でわかるんですけど、これも地域の人全員が見てるかっていうのはそうではないので、こういう双方向がうまく、鏡のように見えるにはやっぱり市長も思い切っても5年ぐらいで、この指標を見直して、市民意識調査の中に、おせっかいが生きる共同体が意識された指標っていうのをお作りになっては、いかがかと。本当は教育委員会が作らないといけないのかとも思うのですが、作っていただけたらどうかと、ちょっと、恐れながら申し上げたいなと思っております。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。お示しいただいた市民意識調査というのは市全体の取組みを進めていく中で、毎年、市民の皆さんの様々な思いを伺う中で、どこに改善の必要があるかなど、そういうことを知っていくために網羅的に調査をしているもので、令和元年度から始めたものになります。</p> <p>おっしゃっていただきましたとおり、もう一つの目標として、市にはたくさん計画がございまして、どうしても指標として客観的に数値として表れにくいものを、アンケートで聞かざるをえないものがある中で、各課が各々アンケートを取ると膨大なアンケートの量になってしまうので、総括的に一つの市民意識調査の中で網羅的に市民の皆さんの状態を知れば、各課がそれを参考にして政策を考えられるという趣旨で行っている調査です。継続的に同じ項目を質問し続ける意味や、項目が多すぎると返答率が下がるということも様々あり、頻繁に見直せるものではないのですが、それも一つの選択肢として伺っておきたいと思うと同時に、こんなアンケートはできないのかなど、積極的に教育委員会の中でご議論していただけるといいのではないかと思います。そのうえで、市民意識調査の項目に入れるかどうかは別にして、いまおっしゃっていただいた、住んでいる地域の行事に参加しているかという項目などは、非常に指標としては面白いと思います。</p> <p>ご案内のとおり、災害などが発生しますと、体育館等で地域の皆さんに共同生活をしていただくことになったりします。この中でお互いが顔見知りであるかどうかなどは、避難生活のストレス等に非常に関わりがありますし、治安上の問題にも関わってきます。やはり教育だけではなくて、様々なものに関わってきますので、地域の繋がりがあるといことは、市全体が良くなっていくことだと私としては考えています。大阪市内のような場所だとわからないですが、四條畷のようなまちですと、まだまだ強みとして生きる分野ですし、</p>

<p>市長</p>	<p>そういう意味で教育大綱に、「おせっかいが活きる共同体」を入れさせていただいたというのがあります。</p> <p>その他、この指標に関して何かご意見等ございますか。山本教育長職務代理お願いします。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>市民意識調査のことなんですけど、先ほど独自アンケートはしんどいという部長の話もあったんですけども、経年評価をずっとされているということは、すごくよくわかるんですけども、そういう意味でいうと、教育大綱ができ、特に教育というのは、市の全面的なバックアップがないとできない部分がありますので、教育委員会が独自にするものでもなく、市の大きな行政の中の一つでやっていかなあかん部分で、その部分に教育大綱ができましたので、逆に日々の中に、その教育大綱という、教育の重要性というのを認識してもらうためには新たなアンケートをやっぱり作ってもいいんじゃないかなというふうにちょっと思います。</p> <p>だから、経年評価から、61の項目でされるところに、プラスアルファでいくつか教育大綱関係の項目をつけてもらう。あるいはそれが無理であれば、この市民意識調査の中の部分で、やっぱり社会教育が関係しないと市民が答えられないような項目をピックアップして、それを我々が、自らの評価にしていくという、そのどちらかが、考えられるかなというふうにちょっと今思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。奇しくもこの総合教育会議の事務局である課が、市民意識調査を担当する課であります。いま教育委員の皆さんからの趣旨のご意見は伺ったと思いますので、おそらくまた内部で調整させていただくことにはなろうかと思えます。ありがとうございます。</p> <p>私としましては、聞いておきたいと思ったところは、一定うかがわせていただいたのですが、せっかくの意見交換の場ですので、今後、力点であったり、ここをもう少し、とかいうところがあれば、何かご意見などいただけますでしょうか。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>何度もすいません。直接、教育振興基本計画に関することではないんですけども、未来教育会議の中で、議事録を読ませていただいてちょっと気にかかるところがありました。それは教育ビジョンについての説明があったところで、どの委員がちょっとはつきり覚えてないんですけども、教育ビジョンであるとか、あるいは教育振興基本計画というのは、単にスローガンに終わってしまって、やや</p>

山本教育長職務代理者	<p>もすると、実態のないものになってくるのではないかという、ちょっと表現は不確かなんですけども、そういう発言があつて、確かにそういう視点で見られることもあるなというふうに、ちょっと思いました。教育ビジョンにつきましては、私もいろいろ関わってきた中があるんですけども、逆に、実際に市の教育としてしなければならないものを、後からビジョンに付け加えていくというような形で、ああいう膨大なビジョンになっていきましたので、ある程度、中身があつたかなというふうには認識をしてるんですけども、教育振興基本計画は、未来教育会議の議論にありましたようにスローガン倒れにならないように、きっちり事務局ともども検証していかなくちゃならないなというふうには感じてます。</p>
市長	<p>ありがとうございます。今のご指摘は、実際、教育大綱についても考えなければいけない点だと思っております。やはり策定した教育の計画にかかわらず、市には他にも福祉の計画など様々ありますが、一体どれだけ市民の皆さんに伝わってるかというところは、教育に限らずたくさんあるのだと思っております。やはり一番いいのは、市ではそういうことを進めようとしているんだ、だったら私たちはこう思う、市としても、こうしていかなければいけないと、先ほどおっしゃっていただいたように、双方向に、住民の皆さんと意見が交わせる。そんなまちが、おそらく長期的に見ると、どこよりも住みよいまちになっていくのだろうと私は思います。</p> <p>ですので、この教育の計画に限らず、やっぱり広報面。広報は非常に大事ですし、先ほどK y o u K a nニュースの話も出させていただきましたけれども、教育委員会としても非常に力を入れて取り組んでおられると思うのですが、教育大綱も含め、どうすればより伝わるのか。私たちも策定した以上、例えば子どもたちに、「教育振興計画の目標・理念は何」と聞いたときに、「みんなの学びが叶うまちやろ」と答えてくれるような児童生徒がいるまちだと、なんていいまちなんだろうと思っておりますので、そういうまちをめざしていけたらと思います。ありがとうございます。</p> <p>尾崎委員、お願いします。</p>
尾崎委員	<p>この四條畷のですね、教育振興基本計画というのは、冒頭、市長さんがおっしゃったような、非常に細かなことは書いていない。しかし大まかではあるけれども大事なことに焦点を当てて、非常に、何て言うのでしょうか、幅があるというか、現場なんかも大事にしながら、それを進める、主体が頑張れるようなそういう基本計画だな</p>

尾崎委員

と思っています。それについて、15ページにあります、基本方針の「主体的に考え行動する生きる力を育む教育の推進」の中の「確かな学力の育成」のところで感じるんですが、その15ページの一行めにありますような、「確かな学力を育むには国語力が必要である一方、近年児童生徒の読解力が低下や読書離れが課題となっています。」この部分なんかも非常におおまかには書いているんですが、実はこれ対比的に申し上げると、この間のニュースを見ますと大阪市が、教育振興基本計画の中で、来年度から4年間の基本計画なんですけど、そこで読解力を育成するために、週1時間、小学校3年生から中学校3年生まで、名前はまだついていませんけれども設けて、読解力を育てなさいと。

もうここまで、非常に細かく思い切った、これも一つのあり方だと思うんですが、対照的なんですね。

しかし四條畷の場合は、16年ほど前から田原小学校が取り組みました。その時、花岡学校教育課長も職員でございましたけれども、三つの力を子どもたちに育てるということをしました。説明力、理由力、感想力。これを軸にしながら、子どもたちに様々な取り組み、保護者のアンケートも取りました。非常に子どもたちの自己肯定感が高まりましたし、その時は非常に小学校の中では、頑張ったねということだったんですが、後に聞きますと、それも10年後ぐらいなんですけど、当時の田原中学校の先生方が、当初は否定的だったんですね、このやり方は。だけれども、田原小学校で育った子どもたちが中学校でメキメキとやっぱり力を伸ばしていったということが、はっきりしてきましてこのやり方はすごいねと、というような評価をいただきました。

実はその流れが、次は、様々な学校に飛び火しまして、岡部小学校では、今も続いていけば十年間になりますけど、この三つの中でも特に説明力、100字で人、物、事を説明するというな取り組みをずっとしてます。その中で、基礎的な記述力とか、国語力が飛躍的に伸びたんですね。実はこれは大阪府教育庁にも、旧教育委員会ですが、目に留まって、お褒めをいただいて、別の市の校長会で、学校の校長と研修担当が話をさせていただくという、そういうこともありました。それが今、忍ヶ丘小学校が本年、文科省指定のカリキュラムマネジメントの研究校になっています。その中の中核になるのも同じこの三つなんですね。

実はこういったものが連綿と流れていて、それがこの文言の中に実はあるんだという。この文言は、仮に保護者の目につかなくても、子どもたちがやっていること、そして掲示されてるんですね。職員

尾崎委員	<p>室の廊下にはずっと子どもたちが書いたもの、1年生から6年生まで。「傘って何ですか」って、傘を説明してるんですよ、100字で。</p> <p>とても面白いです。1年から6年の各年の発達段階の違いと、その子による個性が明確に出てまいります。そういったのは保護者の目にも触れておりますし、そこから逆に振興基本計画でこんなことを大事にしていますよと。そのことが繋がってますよというふうな、関係になるという、その意味でこの基本計画の値打ちがね、四條畷らしさということで、私は非常に良いものであろうと思っています。</p> <p>大阪市を悪く言ってるのではありません。大阪市は大阪市のお考えでなさっているということでよいと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。本当にお示しいただいたとおり、事務局を含め、やはりなるべく現場の先生方の意見というか、やり方を尊重しながら進めていこうという姿勢は、私としてもいつもすごく感じているところで、それが今回の計画にあらわれているのかなと思います。ありがとうございます。</p> <p>その他何かございますでしょうか。</p>
河田委員	<p>保護者からの視点なんですが、私はこれまで本当にこうやって教育委員会で細かなことを、子どもたちの教育に関して決めているっていうことは知らずに過ごしてしてきたんですが、今回こういうふうに関わらせていただいて、ここまできちんと方向性を示して、教育にあたろうとしているっていうことは、たくさんの保護者がね、知るべきだし、知った方がいいのかなというふうに、自分の反省も持ちながら思っています。</p> <p>今こういうコロナの中で、参観日もないような状態で保護者は学校の様子がほとんどわからないという状況でできていますので、やはり学校からの発信、こういうことを今やっているんだよっていうことを強く発信していただくことで、また保護者が、学校がどちらを向いて進んでいくのか、それに伴って、いま子どもたちの教育が、これまでの学校教育の型にはまったものだけではなくて、もっと社会教育的な分野みたいなものも取り込まれているっていうことに関しては、家庭教育もそこには大きく関わってくると思いますので、もっともっと保護者との繋がりも学校には持っていただけたらいいなというふうに思いました。</p>
市長	<p>ありがとうございます。家庭との繋がり、これも大きく包含的には地域との繋がりに含まれるのかと思いますが、少し繰り返しにな</p>

市長	<p>りますが、教育に限らず、発信ですよね。情報の発信。相互に理解し合うというところは、これまで行政としてやってきてはいるつもりなのですが、まだまだ改善できる点もあろうかと思っておりますので、教育委員会も含めて、情報発信の強化をしていければと思っております。ありがとうございます。その他ご意見がございますでしょうか。</p>
教育長	<p>ありがとうございます。この教育の基本が最も大切にすべきことととらえています。ちょうど昨日、(文部科学省の調査について)公表されていますように、子どもたちの置かれている環境は実に多様で多岐にわたります。四條畷市の中でも実に様々ですから、教育委員会でという範疇を越えて、市長部局、福祉部局との連携によって、総力で支え、導き、育むというを忘れないように、広い視野と深い洞察にて進めてまいりたいと思っております。</p>
市長	<p>ありがとうございます。大綱にもありますように、やはり福祉部局との連携が不可欠になろうかというような状況に置かれている子どもたちもいるかと思っておりますので、そこは教育委員会と福祉部局の垣根を越えて、連携しながら取り組んでいただければと思っております。その他いかがでしょうか。</p> <p>(ご意見なし)</p>
市長	<p>よろしいでしょうか。では、もしなければ、この次第の(1)につきましては終わらせていただきます。</p> <p>続きまして、次第の(2)その他になりますが、何かございますでしょうか。</p> <p>教育委員の皆さんにおかれましても、何か振興計画にとらわれず、全体を通して何かございましたら、ご意見をいただきたいと思っておりますがよろしいですか。</p> <p>(意見なし)</p>
市長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、以上をもちまして、令和3年度の第1回四條畷市総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日もありがとうございました。</p>